

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290800016		
法人名	医療法人 社団一就会		
事業所名	グループホーム湯と里		
所在地	伊豆の国市長岡953-1		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=229

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成25年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の生活を第一優先に考え、日々の業務にあたっている。入浴は、温泉を使用。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温泉地に立地し、母体となる病院と同一敷地で隣接しています。毎朝、母体病院の院長が往診に来て利用者ひとりひとりに声をかけています。利用者からも気さくに声をかけることができるため少しの体調変化でも訴えやすく、また頻繁に診察が受けられて、健康でいきいきとした暮らしが叶っています。落ち着いた運営が特色で、家族からも「湯と里で暮らしている様子を見て安心しました。」という声もあります。感染予防にも重点的に取り組んでいて、今年度は講習会に2名の職員が参加し、毎月の会議でも話し合っています。「嘔吐処理セットの準備」「うがい手洗いの徹底」「外部からの感染予防」「体調不良時の出勤停止」などの予防措置の努力もあって、事業所が開設してから1名の感染者も出ていません。人気のある事業所で、待機者も多いことに納得できました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のケアを通じて、入居者様の心の変化に気がつき、どう寄り添うか考え実践していくようにしている。	今年度も、職員ひとりひとりが意見を出し合って話し合い理念を作成しました。全職員がホームヘルパー2級以上の資格を保持しているため、基本知識を土台として理念が実践的に浸透しています。利用者に寄り添うことで、落ち着いて生活できるようになった例もあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の方々や近隣の施設より回覧板や情報を聞き、お祭りなどのイベントに参加している。地元出身の看護学生の実習の受け入れなどもある。	母体法人が主催する「健康祭り」では地域の人の参加も多く、太鼓の披露や保育園の遊戯を観覧したり、地域の高齢者らと利用者が交流しています。また地域の祭典に参加することで、馴染みの知人らとも旧交が深まっています。看護学校の実習生の受け入れは、毎年恒例になっています。	ボランティア活動の受け入れや、併設する小規模多機能事業所との合同イベントなどを検討することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方や一人暮らしの高齢者と出会う機会があると、介護について相談を受けたり、気軽に立ち寄っていただけよう話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容を職員全体に把握してもらい、疑問や問題等の意見があれば、それを検討している。	運営推進会議を平日に開催し、民生委員や地域包括支援センター職員、市職員などが出席しています。自治会長などにも声掛けしていますが、参加には至っていません。そのかわり近隣に住む地域の名士が毎回必ず参加し、地域情報を届けてくれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には、市との連携も視野に入れ働きかけている。	要介護認定の更新などで、市の窓口に出向いています。今年度からは社協主催の「長岡地区地域ネットワーク会議」が開催されました。管理者が参加し、障害者施設やサロン事業など各種事業が参加し地域福祉の交流がおこなわれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、非常口の施錠はしていない。徘徊や転倒の危険性がある方は、常に見守り、付き添って身体拘束はしていない。	事業所入り口は施錠することなく、職員が見守りしています。収集癖のある利用者がいても行動を制約することなく、あらかじめトイレトーパーを外しておくなど環境を整えることで伸び伸びと過ごせるようにしています。職員から抑制的な発言などはみられないそうです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が、ないように常に職員全員で連携体制をとり、教育、注意をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている入居者様はあります。今後も必要な方には積極的に活用を支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時、不安や疑問点には、耳を傾け、いつでも連絡をいただけるよう話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見などがあれば、常に受付、解決に向けて聞き取りをし、職員全員で改善すべき所は、その都度話し合っている。	意見箱を設置していますが、面会時などで直接意見を聞くようにしています。運営推進会議には毎回2-3人の家族の参加しています。家族からは認知症の介護方針について「幼稚になっていない」など良い評価も多くあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話を聞くことも多々あるが、毎月の職員会議でも意見交換をし改善出来ることは受け入れている。	グループホーム会議では積極的な発言で時間が延びてしまうこともあります。また、普段の業務の中でも何気なく相談できる体制ができています。今年度は部屋毎の担当制を導入し、また「物品」「レクリエーション」などの係を決めたことで具体的な意見も多く挙げられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状況を説明したうえで、職員への経営に関しての意識付けを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	掲示したり呼びかけを行い研修の参加を促している。その後は、会議で報告をし知識を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会主催のネットワーク会議に参加し向上にむけて取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を十分に傾聴し、受止める姿勢で対応している。安心して生活してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談には、真摯に受止め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、ご本人やご家族の思いや状況を確認し、改善が図られるようにしている。入居までに至らないケースなどは、他のサービスの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることの参加を働きかけ、ご家族と関わる機会も作れるように、常に職員は、共感をもっていただけるように過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を密にし、協力が必要な所は協力していただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に依頼し、正月の里帰り、お墓参りや買い物への外出がある。出来るだけご本人の希望が実現できるようにしている。	グループホームに入所しても俳句や編み物などが継続できる利用者もいます。また針を使って和裁をする利用者には、家族と話し合い職員が注意することで趣味が継続できています。家族が葉書を用意し、記載したあとは職員が住所を確認のうえポストに投函するなどの手伝いをしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良い関係でいられるように、常に配慮している。気の合う同士が自然とくつろげる場面が多く見られる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方のご家族が会話をしに来られて、その後の様子などを伺い相談を傾聴している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向を、言動や行動、表情から把握するように努めているが困難な場合は、ご本人の安全を考慮し、職員間で判断し検討実施に努めている。	今年度は部屋毎の担当を設けて、個々の利用者の状態を確認しています。気づきの発表がおこなわれることでカンファレンスでは職員からの意見が充実するなどの効果もみられています。表情の変化や発言は「介護日誌」に記入し、職員間で閲覧しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料やご本人の日常の会話からも、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解し、その日の体調や気分、日々の様子を観察し、職員で情報を共有してケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。日々の話し合いや、月一回のケースカンファレンスで話し合い介護計画に反映させている。	担当制を復活したことにより、モニタリングの充実がみられています。外来リハビリテーションに参加している利用者には、理学療法士からの意見を参考にサービス計画に盛り込むこともあります。利用者と家族が十分に合意できるように場を持つこともあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの気づきや工夫、特に注意する点などは、業務日誌に記録し情報を共有している。また、それを介護計画にも活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の状況に応じ通院などに必要な支援に対し臨機応変に対応して個々の不安の解消を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の新聞や広報などからの情報は得て活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、継続して受診できるよう支援している。病状に合った医療受診ができるよう手配している。	入居時に主治医を自由に選択できることを説明し、在宅時のかかりつけ医を継続する利用者もいます。他科に受診する場合は家族に協力を得て同行してもらっています。隣接する母体病院とは昼夜と問わず連絡できているため、「医療連携」が入居に至るの選択理由になることもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェック、体調や表情の変化などに注意し、異常の早期発見に努めている。看護師に相談をし医師につなげる事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人の支援方法に関する情報を病院へ提出して、入院中の様子などは、ご家族や相談員に確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	すぐに、ご家族と連絡を取り、話し合いをし、希望に沿って支援している。	重度化した場合は、隣接する母体病院にすぐ移動できるためスムーズに受診につなげることができます。「入院しないで、最後まで看取ってほしい」という本人、家族の希望で看取りを行った例もあります。病院との連携が充実しているため、夜勤職員の不安も軽減されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	落ち着いて対応するよう備えている。マニュアルがあり、状況に応じて動いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回隣接する病院と一緒に避難訓練をしている。近隣の住民の方々の協力も得ている。	年二回、同一建物に併設する小規模多機能事業所と合同で防災訓練を開催し、地域の住民も参加しています。また利用者と一緒に地域の防災訓練にも加えています。夜間に備え、緊急通報等のマニュアルを整備し、落ち着いて対応できるように会議でも話し合っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いから言葉かけや、対応に失礼がないよう、特に気をつけている。	利用者の状態に応じて成年後見制度の説明をおこなったり、手続きに協力しています。その結果もあり、3名の利用者が入居後に成年後見制度を利用し始めています。入居に疑問をもつ利用者からの訴えをもとに、家族と話し合いの場を持った事もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を必ず確認し、答えやすく選びやすい問いかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせるよう対応できるよう心がけているが職員の業務内容などで、入浴、外出など職員側に合わせてもらう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院へ行ったり、ご家族の希望で整髪を行ってもらう方もいらっしゃる。ご本人の気に入った洋服を家族が手配して下さる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みをお聞きして、手作りのおやつやレクリエーションで召し上がる。食事の片づけなど出来る片は、行っている。	母体病院で調理された食事を提供し、調理に時間を割かない分だけ、盛り付けや後片付け、食器拭きなどを利用者と一緒にこなっています。職員が同じテーブルに着席し、歓談しながら食事をする事で、利用者にも笑顔が溢れている様子が確認されました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を記入し把握している。栄養やカロリーを考えた献立を考え、個々に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを働きかけている。困難な方などは個別に介助している。義歯の方は、夕食後に洗浄、除菌を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、失禁を減らせるようにタイミングを見てさりげなくトイレ誘導している。	入居前のアセスメントにもとづき、利用者になさわしい排泄環境のある居室を勧めています。トイレまで移動しやすくなることで、夜間でも転倒することなく自立した排泄につながっています。声掛けの工夫により、スムーズな排便につながった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳やヨーグルト等の提供、歩行運動、お腹のマッサージなど行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯などは、決めてない。一人ひとりの気持ちを確認したうえで、タイミングなど考えて入浴していただいている。	敷地内に源泉を備え、毎日温泉に入浴できます。入浴の曜日や時間は利用者が自由に希望でき、利用者ごとに湯を張り替えています。「温泉なので午前中に入浴しても夕方まで暖かく過ごせるよ」と言う利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの日中の活動性に配慮し、午睡し夜間は良眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで管理しており、薬の変更、追加等をわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味や特技を活かして役割をもってもらい、ゆったりと過ごしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間でも、外へ散歩出来るようにしている。行事予定を立てて、月一回程度、全員で外出し外食できるようにしている。	足湯のある近所の公園まで散歩に出かけるほか、春、秋など気候のよい時期には積極的に外出レクリエーションを取り入れています。外出時には普段の生活ではみられない能力や表情があらわれるため、外出から帰ってきてからの生活にも反映しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に合わせて、買い物等を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族よりの電話を取り次ぎ会話をされている。手紙のやり取りの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫を凝らし、居心地良く過ごせるよう行事や掲示物で、季節感を味わっていただいている。リビングには、天窓を設置し、明るい光を取り込んで入る。	天窓を備えているため、太陽の明るさが共用空間にほんのりと広がっています。玄関や共用空間にはフキノウや桜、水仙などの生花が飾られ、観葉植物が彩を添えています。廊下には数枚の絵画が飾られ、利用者と一緒に作成した季節の作品などが飾られています。	駐車場から見上げると、洗濯物が外にこぼれるように風にひらめいて、なかには利用者の下着もあります。一般家庭ならではの事とみなすのか、家族の想いに寄り添うのか、一度職員間で話し合われることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファーや椅子に気軽に腰掛けられるようにしている。テレビを一緒に観たり、話をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使っていた馴染みの生活用品を持ち込んで家庭の延長のように過ごされている。	各居室は2間取れるほどの広さがあり、カーペットを敷いたり掲示物を貼ることで自宅の居間にいるような、雰囲気ある居室になっています。大型の家具を持ち込んでも十分な広さがあり、ソファーや仏壇などの馴染みの品も持ち込まれていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーになっている。安全にその人らしい生活が送れるよう混乱しないように工夫している。		